事例３

「認知症の妻を夫が介護。在宅介護のポイントは？」

相談内容

Ｃさんは現在82歳の女性、4年前に脳梗塞で倒れ、軽度の右マヒになりました。当時の要介護認定は1で、軽度の認知症の症状が出ていましたが、半年前にカゼで一時入院したことがきっかけで認知症・身体能力の低下が共に進行し、現在は要介護4となっています。

現在は、同居する83歳の夫が在宅介護をしています。週3回デイサービスを利用しています。

夫はサービスの利用に抵抗感（申し訳なさ）があり、デイサービスを利用する以外は殆ど一人で一生懸命にＣさんを介護しています。

地元の居宅介護支援事業所の仲介で、このＣさん宅を訪問し、介護の状況についてお話をお伺いすると共に、より快適で安心な暮らしをつくるための工夫を一緒に考えました。

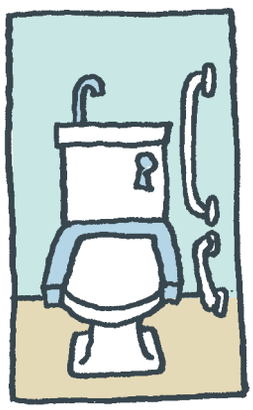
Ｃさんの心身の状況・生活状況を確認してみました。

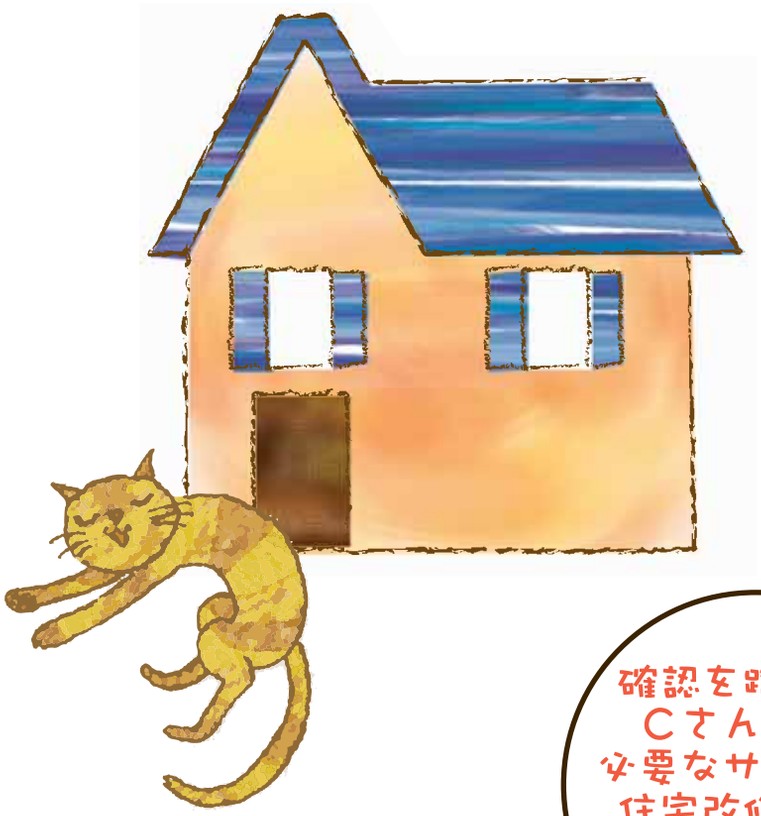
○心身の状況

・軽度の右マヒがある。全身、特に下肢筋力の低下が著しく、全ての日常生活に介護が必要。
・認知症は進んでおり、最近、自分から話すことが少ない。周囲の意識が自分に向いていないと眠ってしまう傾向がある。

○現在の生活の状況

・寝起き・食事・トイレ・入浴など、生活全般を同居の夫が介護している。
・夫は、介護技術のレクチャーは特に受けたことがない。
・手すりの設置など住宅改修は行っていない。福祉用具も殆ど利用していない。





＜総合意見＞

■高齢者の夫婦間による介護は、介護者の負担が特に大きいため、在宅生活を支えるには各種サービスの適切な利用が欠かせません。

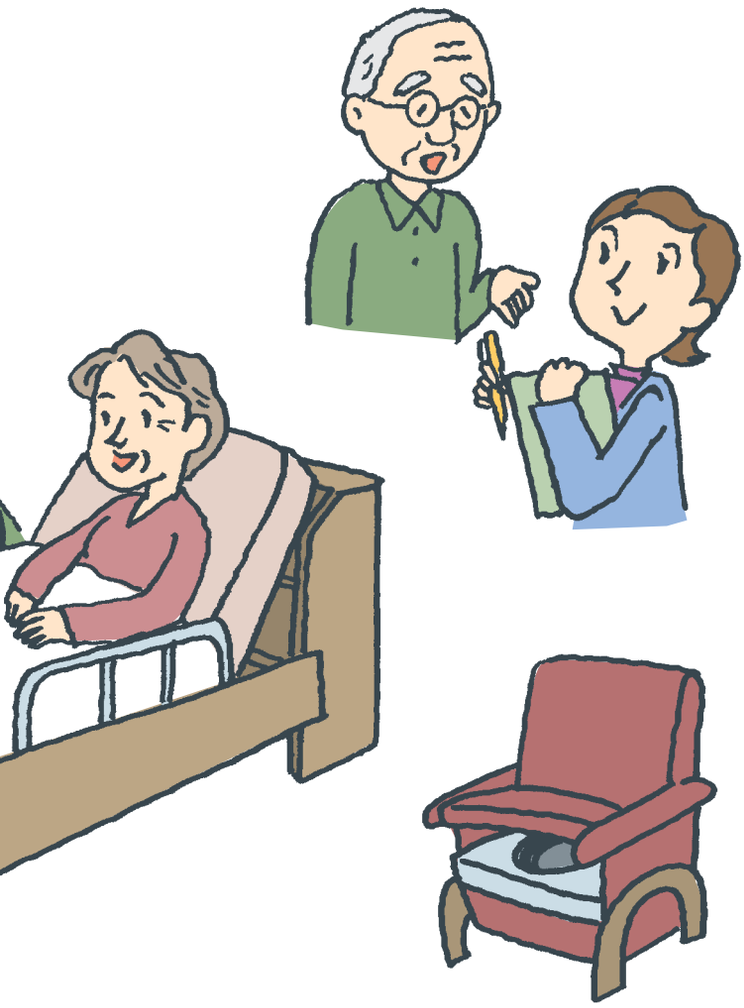
■Ｃさんのケースでは、夫は当初サービス利用に消極的でしたが、専門家の詳細なアドバイスを受け、まず住宅改修と電動ベッドの導入を行った結果、介護負担の軽減を実感して大変喜ばれました。更に適切な介護技術の基本を知って頂くことで、力に頼った無理な介護が少なくなったようです。

■また、家庭だけでなくデイサービスでもＣさんへの声かけを徹底したことにより、声を出す・笑顔を見せるなどの変化が見られるようになり、周囲も喜んでいます。

■しかし、高齢者間の介護ではご本人のみならず介護者も状況が変わりやすいので、サービス機関等の支援者は介護者の状態にも注意を払った上で、安全で、できるだけ心身の負担の少ない生活の仕方を提案していくことが必要でしょう。

確認を踏まえ、Ｃさん夫婦に必要なサービスや住宅改修などについて考えました

専門家からのアドバイス



・Ｃさんの認知症は重度だが、簡単な文で、ゆっくり身振りを交えて話すと、わかって頂ける。

⇒デイサービス利用時、スタッフに細やかに話しかけてもらい、思考活動を誘導する。

・玄関にＣさんの掴まれるところがなく、出入りの際は夫がＣさんを抱きかかえるようにして介護している。
・Ｃさんは布団で寝起きしており、立ち上がりの際はやはり夫が抱きかかえている。
・トイレは定時に誘導しているが、排泄リズムが安定せず、おむつにしてしまうことが多い。

⇒夫に、介護する方・される方のどちらにも安全で適切な介護技術を知って頂く。
介護保険の住宅改修を利用して、玄関とトイレに手すりを設置することで、Ｃさんと夫の負担をどちらも軽減する。
また、電動ベッドとポータブルトイレを導入し、夜間の排泄はポータブルを利用する。